

教 育 研 究 業 績 書

2025年 5月 1日

氏名 萬 司

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 教育学：音楽科教育		教科教育学：中学校・高等学校学習指導要領、教育のデジタル化	
2. 文化人類学：民俗音楽		文化人類学・民俗学：我が国や郷土の音楽、アイヌ民族の伝統音楽	
3. 教育学：特別支援教育		特別支援教育：特別な教育的ニーズ	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年月日	概 要
1 教育方法の実践例 1)「音楽教育法A～D」の学生教育指導		2018.4～現在	中学校及び高等学校学習指導要領に基づく音楽科教育の指導について、理論と実践を密接に関連させた授業構築を工夫している。教科用図書にとどまらず教師用指導書や教科書会社より配信される教授資料を活用し、実践的な学習指導案の作成を指導している。また、デジタル教科書などのICTを活用するスキルを身に付けることができるよう環境整備を行っている。
2)「教育実習事前事後指導」の学生教育指導		2021.9～現在	教育実習の事前事後のスケジュールを管理し、教育実習に必要な諸条件が到達されるように3年次前期からの指導を構築している。実習校の選択、教育実習日誌をはじめとする文書の作成指導、専門科目の教科指導（学習指導案の個別指導を含む）、教育実習報告書の作成指導などについて、オリジナルの資料を作成して指導を行っている。また、教職課程のまとめとなる科目「教職実践演習」の学習内容と関連付けられるよう指導を展開している。
3)「教育の方法及び技術」の学生教育指導		2022.4～現在	授業科目の目的を、教育方法の基本的な理論を理解し、主体的・対話的で深い学びを展開するために必要な基本的な技能を身に付けることを明確にして、シラバスの構造化を工夫している。学習指導案の構成や教材研究の方法を実践的に学ぶとともに「指導と評価の一体化」を図った学習評価について理解する内容となっている。また、情報機器を活用した教材等の作成や提示方法、情報通信技術を活用した指導方法（デジタル教科書の活用を含む）の基本的スキルを身に付けられるよう教材の提示を行っている。遠隔授業やオンライン教育の意義とシステムの運用、情報モラルを含む情報活用能力の育成について理解することも目標としている。
2 作成した教科書、教材 1)音楽教育研究ハンドブック 日本音楽教育学会創立50周年記念出版		2019.10	音楽教育研究の指針として、担当は「第4章 小学校・中学校・高等学校における音楽教育」である。執筆内容は、各校種の学習指導要領の指導事項に基づき、「音楽文化との関わり」を研究の対象とした際の研究方法について解説した。我が国や郷土の音楽の伝承や変遷を踏まえた教材化の視点、対象とする音楽や芸能の選択など、我が国や郷土の音楽を取り扱う教育方法のあり方について示した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
4 実務の経験を有する者についての特記事項		2009.7	2008年告示の学習指導要領の改訂に携わった経緯から、全国各地の教育委員会や研究団体から講師依頼があり、実践研究に基づく音楽科教育の工夫・改善に取り組んでいる。また、教員免許更新講習の講師としての活動もある。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
5 その他	2017. 10 2019. 4～2023. 3 2020. 2～2022. 3 2020. 6～2022. 8 2022. 4～現在 2023. 4～2025. 3 2023. 4～2025. 3 2023. 4～2025. 3 2023. 4～2025. 3 2025. 4～現在	日本音楽教育学会 設立50周年記念出版委員会 編集委員 日本民俗音楽学会 調査・研究員会 委員長 北空知地域いじめ問題対策専門家会議 委員長 全国保育士養成協議会 理事（兼 北海道ブロック副会長） 北海道・札幌市公立学校教員採用に関する協議会 委員 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会 事務局長 北海道教員育成協議会 委員 札幌市教員育成協議会 委員 北海道いじめ問題対策連絡協議会 委員 日本民俗音楽学会 理事（事務局担当）
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年月日	概 要
1 資格、免許	1984. 3. 15 1984. 3. 15 2006. 5. 12	中学校教諭一種免許状(北海道教育委員会 第1447号) 高等学校教諭一種免許状(北海道教育委員会 第1771号) 養護学校教諭二種免許状(北海道教育委員会 第0034号)
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項	2006. 9～ 2009. 3 2009. 4～ 2010. 3 2009. 7～ 2013. 8 2009. 7～ 2019. 3 2009. 12～ 2019. 3 2010. 4～ 2019. 3 2010. 8 2010. 8 2010. 8～ 2011. 8 2010. 11 2011. 8 2013. 8 2014. 11 2014. 11～ 2015. 1～ 2020. 1 2015. 1 2017. 8 2018. 3 2018. 8 2019. 12 2020. 8 2021. 11 2022. 8 2022. 8 2022. 9	(1)文部科学省 中学校学習指導要領解説 音楽編作成委員、及び 調査・研究委員 (2)文部科学省 学習評価の改善等に関する調査研究 委員 (3)岩手県教育委員会 音楽科教育講座 講師【教員免許更新講習 講師】 (4)公益財団法人音楽鑑賞振興財団 夏の勉強会【教員免許状更 新講習講師】 (5)公益財団法人音楽鑑賞振興財団 冬の勉強会【教員免許状更 新講習講師】 (6)公益財団法人音楽鑑賞振興財団 研究委員 (7)和歌山県小中学校音楽教育研究会 講師 (8)名古屋市音楽教育研究会 講師 (9)石川県教育委員会・金沢市教育委員会 音楽科教育講座 講師 (10)東北音楽研究大会盛岡大会 特別支援部会 助言者 (11)北海道稚内市教育研究会 中学校音楽 講師 (12)神奈川県茅ヶ崎市音楽教育研究会 講師 (13)東北音楽研究大会釜石大会 特別支援部会 助言者 (14)青森県八戸市中学校音楽教育研究会 講師 (15)香川県中学校教育研究会（音楽） 講師 (16)徳島県徳島市音楽教育研究会 講師 (17)鹿児島県中学校教育研究会音楽部会 講師 (18)山形県酒田市音楽科授業研究会中学校 講師 (19)奈良県鑑賞教育研修会 講師 (20)十勝音楽教育研究会 講習会 講師 (21)山形県教育センター 探究型学習推進講座B【音楽(中・高)】 講師 (22)全日本音楽教育研究会全国大会八戸・三戸大会 中学校部会 助言者 (23)仙台地区中学校教育研究会 講師 (24)奈良県鑑賞教育研修会 講師 (25)山形県教育センター 令和4年度 確かな学力の育成講座B 【音楽(中・高)】 講師
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1) 平成20年改訂中学校 教育課程講座 音楽	共著	2008. 11	ぎょうせい (223頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説 作成 委員として、第6節鑑賞で全 学年の「鑑賞領域」と「共通事項」 の詳細な解説を執筆。 鑑賞指導事項ア～ウの関係性、事項 アにもとづく授業づくりのポイント、 学習指導要領告示時に注目を集めた 「根拠をもって批評する」の具体例、 第1学年の取扱いが変更された歴史的・ 文化的背景と音楽の特徴との関係性、 鑑賞領域の学習における教材選択の 視点について詳細を解説した。 (pp. 83～96、pp. 171～182) 筆者：伊野義博、臼井学、小熊利明、 清田和泉、清水宏美、副島和久、田 中龍三、西園芳信、松本進、 <u>萬 司</u>
2) 中学校新学習指導要 領の展開 音楽科編	共著	2009. 2	明治図書 (196頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説 作成 委員として、全学年の「鑑賞 領域」と「共通事項」の詳細を解説。 授業づくりのポイントとして「音楽 の要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ 受することへの重視」の執筆、鑑賞 領域の学習指導案を2つ提示した。 (pp. 74～85、pp. 98～105、pp. 132～ 133、pp. 163～167、pp. 180～185) 筆者：原田徹、小熊利明、清田和泉、 酒井美恵子、杉山利行、副島和久、 福士幸雄、矢野順子 <u>萬 司</u>
3) 教員養成大学用教科 書 中等科音楽教育法 中学校・高等学校教員養 成課程用	共著	2009. 4	音楽之友社 (231頁)	中学校第3学年の学習指導案を執筆。 平成10年告示中学校学習指導要領に 準拠した学習指導案として鑑賞領域 の指導計画及び評価計画を提示し た。 (pp. 206～208) 筆者：秋田賀文、筆者多数のため省略 (68名) <u>萬 司</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 4) 音楽授業が魅力的に変わる！中学校音楽科の授業プラン第2・3学年	共著	2010. 11	明治図書 (143頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成 委員として、さらに詳細な解説が必要な指導内容を説明。「根拠を持って批評するためとは」「音楽の背景や他の芸術を取り扱うこととは」「音楽の素材としての音」「創作活動が取り組みやすい工夫のあれこれ」を解説。また、「身のまわりの音と結び付いた音楽を聴き深めよう」を題材名とした鑑賞の指導事例を提示した。 (p. 73、p. 77、pp. 82～85、pp. 130～131) 筆者：原田徹、小熊利明、酒井美恵子、副島和久、清田和泉、福士幸雄、矢野順子、今井るり子、勝山幸子、尾沢栄一、宮沢高章、澤貴子、開発直樹、成田幸代、鈴木三千代、星和子、小原一穂、大庭一修、渡部智子、伊藤尚毅、千葉葉子、古屋敷博明、丸山尚子、<u>萬 司</u>
5) 音楽授業が魅力的に変わる！中学校音楽科の授業プラン第1学年	共著	2010. 11	明治図書 (132頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成 委員として、詳細な解説が必要な指導内容を説明。「表現方法や表現形態を選択する具体的な取り組み」「知覚と感受の考え方」「テクスチャのとらえ方や指導の仕方」を解説した。 (pp. 66～67、p. 101、p. 125) 筆者：原田徹、小熊利明、酒井美恵子、杉山利行、副島和久、清田和泉、福士幸雄、矢野順子、今井るり子、小原一穂、柳博恵、木村信之、長者久保希史子、伊藤尚毅、渡部智子、丸山尚子、納富千代美、岡本礼、関根幸子、谷口桃子、開発直樹、古屋敷博明、<u>萬 司</u>
6) 教員養成大学用教科書 中等科音楽教育法〔改訂版〕中学校・高等学校教員養成課程用	共著	2011. 2	音楽之友社 (231頁)	中学校第3学年の学習指導案を執筆。平成20年告示中学校学習指導要領に準拠した学習指導案として、鑑賞領域の指導計画及び評価計画を改訂した。 (pp. 206～208) 筆者：秋田賀文、筆者多数のため省略(68名) <u>萬 司</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 7) これからの鑑賞の授業	共著	2011. 11	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (103頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』『中学校学習指導要領解説 音楽編』(2008文部科学省)に準拠して、小・中学校の鑑賞領域の指導内容の詳細を解説。鑑賞領域の指導を例示するとともに具体的な事例も執筆した。 (pp. 1～40、pp. 45～46、pp. 88～91、pp. 98～103) 筆者：石井ゆきこ、江田司、勝山幸子、清田和泉、長者久保希史子、館雅之、吉川武彦、小原光一、川池聡、 <u>萬 司</u>
8) これからの鑑賞の授業2	共著	2014. 5	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (102頁)	『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』(2011国立教育政策研究所教育課程センター)に準拠して、小・中学校の音楽科の指導と学習評価について解説。指導と評価が一体となった授業を展開するために、鑑賞領域の指導を例示し説明した。また、中学校の具体的な事例も執筆した。 (pp. 5～35、pp. 79～100) 筆者：安部文江、石井ゆきこ、江田司、大庭一修、河崎秋彦、勝山幸子、長者久保希史子、館雅之、吉川武彦、 <u>萬 司</u>
9) DVDブック事例集1 実践しよう！鑑賞の授業「春の海」「六段の調」	共著	2016. 5	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (56頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』『中学校学習指導要領解説 音楽編』(2008文部科学省)に準拠して、箏の音楽を教材にした事例を示した。加えて、必要な視聴覚教材の企画と撮影を行いDVDに収録した。 (pp. 30～44) 筆者：安部文江、石井ゆきこ、梅宮真理、河崎秋彦、勝山幸子、熊倉佐和子、長者久保希史子、館雅之、 <u>萬 司</u>
10) DVDブック事例集2 実践しよう！鑑賞の授業 郷土の音楽 青森ねぶた祭の音楽・神田祭の音楽・「こきりこ」	共著	2017. 5	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (56頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』『中学校学習指導要領解説 音楽編』(2008文部科学省)に準拠して、郷土の音楽を教材にした事例を示した。加えて、必要な視聴覚教材の企画と撮影を行いDVDに収録した。 (pp. 3～4、pp. 42～51) 筆者：安部文江、石井ゆきこ、梅宮真理、河崎秋彦、菅原吏枝子、高道有美子、熊倉佐和子、長者久保希史子、館雅之、 <u>萬 司</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 11) DVDブック事例集3実践しよう! 鑑賞の授業 オーケストラの音楽Ⅰ 「トルコ行進曲」「ペールギュント 第1組曲」「交響曲第5番(ベートーヴェン)	共著	2018.7	公益財団法人 音楽鑑賞振興財団 (56頁)	『小学校学習指導要領解説 音楽編』『中学校学習指導要領解説 音楽編』(2008文部科学省)に準拠して、オーケストラの音楽を教材にした事例を示した。加えて、必要な視聴覚教材の企画と撮影を行いDVDに収録した。(pp.3~4, pp.24~36) 筆者: 安部文江、石井ゆきこ、梅宮真理、勝山幸子、河崎秋彦、熊倉佐和子、菅原吏枝子、高道有美子、館雅之、 <u>萬 司</u>
12) 音楽教育研究ハンドブック 日本音楽教育学会創立50周年記念出版	共著	2019.10	音楽之友社 (247頁)	学会設立50周年記念となる研究書籍で、担当は「第3部 音楽教育研究のフィールドと実際」の「第4章 小学校・中学校・高等学校における音楽教育4-3 音楽の学びの広がり4-3-1 音楽文化との関わり」である。義務教育段階での音楽文化に係る今後の研究の方向性について言及した。(pp.190~191) 筆者: 加藤富美子、筆者多数のため省略(113名) <u>萬 司</u>
13) 指導と評価がつながる! 中学校音楽授業モデル 第2・3学年	共著	2021.8	明治図書 (148頁)	『中学校学習指導要領』(2017文部科学省)及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(2020国立教育政策研究所教育課程センター)の趣旨をふまえ、第2・3学年の創作分野の事例として執筆した。題材名「「荒城の月」の前奏をつくろう」とし、「荒城の月」を箏で表現するとともに、平調子を構成する音を活用してまとまりのある旋律をつくり前奏として表現する学習を「指導と評価の一体化」の趣旨から整理し示したものである。 (pp.116~119) 筆者: 副島和久、伊野義博、著者多数のため省略(27名) <u>萬 司</u>
14) 指導と評価がつながる! 中学校音楽授業モデル 第1学年	共著	2021.8	明治図書 (126頁)	『中学校学習指導要領』(2017文部科学省)及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(2020国立教育政策研究所教育課程センター)の趣旨をふまえ、第1学年の鑑賞領域の事例として執筆した。題材名「平調「越天楽」残楽三返の構造を理解して、聴き深めよう」とし、平調「越天楽」の残楽三返による構造を理解し、曲想の変化を感じ取りながら平調「越天楽」のよさや美しさを味わいながら鑑賞する学習を「指導と評価の一体化」の趣旨から整理し示したものである。 (pp.102~105) 筆者: 副島和久、伊野義博、著者多数のため省略(27名) <u>萬 司</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1) 中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽	共著	2008. 3告示	文部科学省 (237頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成 委員として、中学校音楽科の改訂を行い本文の検討及び執筆を行った。全学年「B 鑑賞」の執筆、「第2 各学年の目標及び内容」「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」も協力執筆した。 (pp. 74～79) 筆者:伊野義博、小熊利明、清田和泉、清水宏美、杉山利行、副島和久、田中龍三、中島卓郎、中村明一、西園芳信、原田徹、福士幸雄、峯岸創、矢野順子、 <u>萬 司</u>
2) 中学校学習指導要領 解説 音楽編	共著	2008. 9	文部科学省 発行所:教育芸術社 (101頁)	中学校学習指導要領の改訂及び解説作成委員として、第1 学年の目標と内容 (2) B 鑑賞、第2 学年及び第3 学年の目標と内容 (2) B 鑑賞の解説を執筆した。このほか「第4 章 指導計画の作成と内容の取扱い」の協力執筆、指導事項に示される文言の詳細について解説した。 (pp. 35～38、pp. 51～54、pp. 59～60) 筆者:伊野義博、小熊利明、清田和泉、清水宏美、杉山利行、副島和久、田中龍三、中島卓郎、中村明一、西園芳信、原田徹、福士幸雄、峯岸創、矢野順子、 <u>萬 司</u>
3) 日本伝統音楽の授業 において何を指導内容 とするか: 型の学びと ともに伝統の本質であ る創意に満ちた発展的 体験を	単著	2009. 3	日本学校音楽教育実践 学会 学校音楽教育研究: 日 本学校音楽教育実践学 会紀要 13号	研究大会ラウンドテーブルⅡの報告 として、日本の伝統音楽における型 (旋律型など)に着目し、その本質 と変容の許容を取り上げてディスカ ッションした内容をまとめた。 (p. 260)
4) 江差(北海道)に伝わ る民謡の教材分析と指 導計画に関する考察: 「我が国の伝統的な歌 唱の充実」を取り扱う 授業開発	単著	2010. 3	日本学校音楽教育実践 学会 学校音楽教育研究: 日 本学校音楽教育実践学 会紀要 14号	本稿は、「我が国の伝統的な歌唱」に 関する学習指導について、江差(北 海道)に伝わる民謡を教材に、新学 習指導要領に準拠した指導計画を作 成し、学習評価までの取扱を示唆し ながら授業実践の考察を報告した。 (pp. 124-125)
5) 音楽における「諸要 素」と感情的性格との関 連づけ: 中学校音楽授業 における実践的研究	共著	2011. 6. 5	日本音楽知覚認知学会 (2011年度春季研究発 表会資料)	本論文は、根拠を伴う批評活動と、 音楽の要素を知覚し感受して曲想 (感情的性格)を感じ取ることの関 連を研究した結果を述べている。研 究では、特定の楽曲について、曲想 が異なるように要素を操作した複数 の演奏を比較聴取し、要素の違いと 曲想とを関連づけて認知するという 仮説を立て実践的検討を行った。な お、比較聴取する複数の演奏版とし て、4つの基本感情である喜び、悲し み、怒り、優しさと無表情の5つと し、それらを新たに録音した。 (pp. 79～84) 筆者: 吉野巖・内田輝・ <u>萬 司</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 6) 私のICT活用術 情報提示のあり方とコミュニケーション	単著	2014. 3	日本音楽教育学会 音楽教育実践ジャーナルVol. 11 No. 2 (203頁)	本論文は、中学校音楽科におけるICTを活用した情報提示とコミュニケーションの実践を報告した。音楽科では、音や音楽による情報とコミュニケーションを重視するが、これ以外に教科書やプリントによる文字、写真、図表、楽譜などの情報、教師の指示や発問、板書なども情報とし、その提示方法や指導者・学習者が共通認識したコミュニケーションとなるようにICTの活用について述べた。 (pp. 44～45)
7) 江差(北海道)に伝わる民謡の教材化:「我が国の伝統的な歌唱」を取り扱う授業開発	単著	2014. 3	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究39号 (104頁)	本論文は、北海道檜山郡江差町で民謡の保護や保存会の活動状況などを調査し、授業開発に必要な情報や資料の収集を行い、教材化を行った結果を述べている。 「江差沖揚げ音頭」「江差追分」を研究対象とし、歴史的文化的背景やそれと関連する音楽的特徴を踏まえて教材化を行った。いわゆるソーラン節を教材とした授業内容について、適切な取扱いが行われるように研究したものである。 (pp. 61～70)
8) アイヌ民族の伝統音楽の教材化: 座り歌(upopo)と踊り歌(rimse)の教材化と授業開発	単著	2015. 3	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究40号 (80頁)	本論文は、アイヌ民族の伝統音楽の「座り歌(upopo)」と「踊り歌(rimse)」から、中学校音楽科の学習で取り扱うように分析・選択した結果を述べている。 「座り歌」は《chupka wa kamuy ran》を選択し輪唱による表現を特徴とし、「踊り歌」は《ku rimse》を選択し交唱による表現を特徴とする。これらを教材に、表現と鑑賞の領域が関連する授業開発を行い文化的・音楽的価値を考える学習指導を計画した。アイヌ語によるコミュニケーションや生活習慣等が失われつつあり、学校教育でアイヌ民族の伝統音楽に対する文化的・音楽的価値を認識することは、その保存や保護につながる。 (pp. 34～43)
9) 【書評】図書紹介 野本由起夫著「クラシック名曲のワケ」(2016音楽之友社)	共著	2016. 3	日本音楽教育学会 音楽教育実践ジャーナルVol. 14 No. 2 (203頁)	本書評は、野本の著書で取り上げている鑑賞教材について、楽曲分析と鑑賞領域の学習への有効性について評価し述べた。授業実践を考えた際、学習指導要領に示される〔共通事項〕による学習活動が想定されていることから、実用性が高い書籍とし紹介した。 (p. 119) 筆者: 小林田鶴子・豊田典子・森保尚美・ <u>萬 司</u>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 10) 幼稚園教育要領改訂後の教員養成の在り方: 三つの幼児教育施設の関係性と小学校との接続から	共著	2018. 3	拓殖大学北海道短期大学紀要(創立50周年記念号) (162頁)	本論文は、2017年(平成29年)3月告示『幼稚園教育要領: 文部科学省』と『小学校学習指導要領: 文部科学省』との関係性をふまえ、幼稚園教諭等の教員養成の在り方を考察する。『幼稚園教育要領』と同じく対象となるのは『保育所保育指針: 厚生労働省』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領: 内閣府・文部科学省・厚生労働省』である。これらの領域「健康」「表現」のねらいや内容、3歳児以上の内容が共通に改訂されたことを基に、今後の幼稚園教諭・保育士・保育教諭の養成について考察した。 (pp. 41～57) 筆者: 坂井莉野・萬 司
11) アイヌ民族の伝統音楽の教材化: 伝統楽器トンコリの教材化と授業開発	単著	2018. 3	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究43号 (77頁)	本論文は、アイヌ民族の伝統楽器トンコリを用いて「トーキトランラン」を教材に音楽科の学習で取り扱うことができるように分析・教材化した結果を述べている。 トンコリの特徴は、五音音階による調弦で開放弦のみを用いる表現が基本となる。表現教材「トーキトランラン」は基本となる旋律型を反復する中で、リズムや構成音を変化させる手法で変奏するという音楽的構造をとる。こうして、器楽表現による授業開発を計画し文化的・音楽的価値を考える学習活動を実践研究することで、学校教育でアイヌ民族の伝統音楽の文化的・音楽的価値への認識を高めた。以上は、前「座り歌と踊り歌の教材化と授業開発」に続く研究となる。 (pp. 25～35)
12) 幼児期における特別な教育的ニーズに対する支援への考察: 北海道幼児教育振興基本方針から	単著	2019. 10	拓殖大学人文・自然・人間科学研究所 人文・自然・人間科学研究 第42号 (161頁)	本論文は、2018年(平成30年)に策定された『北海道幼児教育振興基本方針』に基づいて、北海道の幼児期における特別な教育的ニーズに対する支援の実態について考察したものである。また、『北海道幼児教育振興基本方針』と連携する『特別支援教育に関する基本方針』(2018)、国立特別支援教育総合研究所等の調査報告、その他の先行研究を参照し、幼児期における教育相談の実態を分析し考察を行った。北海道の地域特性に応じた支援に関する課題を探究した研究である。 (pp. 116～130)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 13) 子どもの音楽表現から考える幼小連携: 子ども向けミュージカルの実践から	単著	2020. 10	拓殖大学人文・自然・人間科学研究所 人文・自然・人間科学研究 第44号 (161頁)	本論文は、小学校学習指導要領に基づく小学校音楽科用教科書（低学年）の掲載曲を分析し、掲載曲を用いる指導内容の具体を検証した。これを基に幼稚園等の現場で使用される曲集の掲載曲を比較分析し、幼児教育の段階での課題について言及している。そして、子どもの主体的な参加を意図した「子ども向けミュージカル」の音楽表現や身体表現のあり方を検討し、音楽表現の観点から幼小連携を考察した研究である。 (pp. 120～141)
14) 幼稚園教育要領における「指導と評価の一体化」に関する考察	単著	2021. 3	拓殖大学北海道短期大学 拓殖大学北海道短期大学研究紀要第1号 (93頁)	本論文は、2020年6月発行『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所教育課程センター）を参照し、幼稚園教育要領を「指導と評価の一体化」の観点から考察した研究である。幼稚園教育要領に示される幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の関係性に着目し、今後の改訂の方向性を言及した。 (pp. 41～52)
15) 自発的な活動を促す「子ども向けミュージカル」の開発及び改善	共著	2022. 3	拓殖大学人文・自然・人間科学研究所 人文・自然・人間科学研究 第47号 (240頁)	本論文は、2021. 10. 22に拓殖大学人文・自然・人間科学研究所に受理されている。「子ども向けミュージカル」の開発及び改善を行い、幼児教育段階での取扱いを考察するものである。幼稚園等が幼児期の学校教育として位置づけられることに伴い、小学校教育との連携のあり方を考察した。幼児教育段階での「子ども向けミュージカル」のあり方を検証し、今後の子どもの音楽表現や身体表現について言及した。 (pp. 142～156) 筆者：山田克己・ <u>萬 司</u>
16) 音楽科のカリキュラム編成と「指導と評価の一体化」に関する考察	単著	2022. 3	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第52号 (139頁)	本論文は、2017年（平成29年）の学習指導要領改訂までの経緯を踏まえ、今後の音楽科のカリキュラム編成を考察したものである。音楽科のカリキュラム編成の方向性、これと関連する「指導と評価の一体化」の考え方を対象とした。また、「指導と評価の一体化」では題材の指導計画と評価計画との整合を図る必要があるため、年間や題材の指導計画を立案する際の影響や、指導に必要とされる教材（楽曲）の選択について言及している。（pp. 17～27）

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 17) 「山」がテーマの歌や音楽	単著	2022. 11	北海道勤労者山岳連盟 第51回 北海道登山研究集会 論文報告集 (73頁)	本論文は、北海道勤労者山岳連盟の依頼で「山」がテーマの歌や音楽を収集調査した結果を述べている。学校教育で扱われる歌や音楽として、小・中学校の教科書に掲載されている10曲について、歌詞の内容や文部省唱歌としての役割、音楽の特徴などを解説した。また、「山」に関する身近な歌や音楽として84曲を調査し、楽曲の背景や音楽の特徴の視点から解説を行った。(pp. 1～9)
18) 中学校における特別の教科 道徳の変遷と音楽科との関連	共著	2023. 3	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第53号 (PDF 出版)	本論文は、「特別の教科 道徳」について、教育関連法の改正や中学校学習指導要領の改訂などから道徳教育の取扱いの変遷を考察したものである。その視点として、道徳教育の基本方針、道徳の教科化への論点、教科化前後の道徳の内容項目などに注目し、今後の道徳教育のあり方について言及している。「特別の教科 道徳」の現状を踏まえ、教育課程の編成と学習評価に今後の課題があることを指摘している。(pp. 1～17) 筆者：萬 司・川元藍
19) 青森県八戸市の伝統芸能「えんぶり」の教材化と授業開発: 郷土の伝統芸能や音楽を取り扱う音楽科の授業の構築	単著	2023. 3	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究 48号 (80 頁)	本論文は、青森県八戸市の伝統芸能「えんぶり」を教材にして中学校音楽科の授業を計画し、その成果と課題を述べている。教材化に当たっては、各組の「えんぶり」の共通性や固有性を視点に、「太夫の摺り」の《摺り初め》の唄を視覚的に確認しやすいように工夫した図譜を試作し、これを活用して中学校学習指導要領に準拠した授業を検討し指導計画案を示した。成果と課題として、図譜や指導計画案の有用性や汎用性、「えんぶり」の授業が中学生に与えた影響、授業で使用する音源や映像の確保について述べている。(pp. 1～11)
20) ICTを活用した音楽科の学習活動の今後	単著	2024. 3	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第54号 (PDF 出版)	本論文は、『研究紀要第 101 号 ICTを活用した授業改善の推進』〔一般社団法人教育調査研究所 2022〕の調査結果を参照し、音楽科の ICT 活用について「集団の学習活動」と「個別の学習活動」とに分けて考察し、「個別の学習活動」での ICT 活用の重要性に言及している。「個別の学習活動」におけるデジタルコンテンツの先行例として、ナクソス (NAXOS) のナクソス・ミュージックボックスを調査・考察した。一斉授業を基本としてきた音楽科の現状に対し、ICT の活用によって「個別の学習活動」による新しい授業の可能性と課題を述べている。(pp. 1～20)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 21) 比較聴取は音楽の要素と感情的性格との関連づけを促すか: 中学校音楽授業における実践的研究	共著	2024. 3	日本音楽知覚認知学会 音楽知覚認知研究 第29 巻第 2 号	本論文は、感情的性格が異なるよう音楽の要素を操作した複数の演奏を比較聴取し、音楽の感情的性格と諸要素との関連が促進されるかについて、中学校の鑑賞授業で実践的に検討した。ヴィヴァルディ「春」1 楽章冒頭部の諸要素を変化させた 5 種の演奏（喜・悲・怒・優・無表情）を録音し、実験群クラスは 5 種の演奏を比較聴取し、統制群クラスは授業を受けなかった。この鑑賞授業の前後に、別の楽曲に対する聴取課題を行った結果、実験群で音楽の要素に関する自由記述量が事後で有意に増加し、比較聴取の授業の効果が認められることを述べている。 (pp. 79～84) 筆者：吉野巖・内田輝・ <u>萬 司</u>
22) 高等学校音楽科の年間指導計画の改善への考察	共著	2025. 3	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要 第 55 号 (PDF 出版)	本論文は、高等学校学習指導要領〔文部科学省 2018〕が2022 (令和4) 年より芸術科音楽 I (以下、高等学校音楽科と示す) から年次進行で実施されることを踏まえ、高等学校芸術科 (音楽) の現状を推察した。そして、課題として「年間指導と学習評価の計画」「郷土の音楽や芸能を教材にした授業開発」の二点を挙げ、それぞれの具体例を示して考察を行った。高等学校は多様な学科・コース等を有し、このことで芸術科の開講が複雑となり小・中学校とは異なり学習評価の改善が遅れている可能性を指摘した。郷土の音楽や芸能は、比較文化論的視点での教材分析と授業構築の必要性を指摘している。 (pp. 1～19) 筆者：乗松凜・ <u>萬 司</u>
(口頭発表) 1) 【学会発表】アイヌ伝統音楽の教材化: ウポボの音楽的特徴	単著	2012. 3	日本民俗音楽学会 民俗音楽研究37号 (62頁)	アイヌ伝統音楽を学校教育で取り扱うために教材化を図る目的と方法を報告した。大まかに輪唱と音頭一同形式による演奏形態に着目した研究成果の報告である。 (pp. 48～49)
2) 【学会発表】小・中学校音楽科での郷土の芸能や音楽の取扱い: 教材 DVD の開発から	単著	2018. 3	日本民俗音楽学会 第7回研究例会	小・中学校音楽科で我が国や郷土の音楽を取り扱うことを一層重視することを踏まえ、学習用の鑑賞教材 (DVD教材) の在り方について研究成果を発表した。教材を使用する目的や意図によって検討の観点は変えることを主張し、収録の成果として映像の構成を説明した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(口頭発表) 3) 【学会発表】郷土の芸能・音楽の教材化: 北海道深川市における考察	単著	2018. 8	日本民俗音楽学会 第11回民俗音楽研究会	これまでの学習指導要領において、我が国や郷土の音楽文化を取り扱うことを基盤としたこと、これと関連を図りながら多様な音楽文化を取り扱うことを求めている現状を分析し報告した。そして、北海道ならではの事情や状況をとらえ「郷土の芸能・音楽の教材化」とし北海道深川市の実態を報告した。
(その他) 1) 江差 (北海道) に伝わる民謡の教材分析と指導計画に関する考察	単著	2010. 3	日本学校音楽教育実践学会 学校音楽教育研究 vol. 14 (279頁)	「我が国の伝統的な歌唱」に関する学習指導について、江差 (北海道) に伝わる民謡を教材に、新学習指導要領に基づいた指導計画を作成し、授業実践の考察を報告した。 (pp. 124～125)
2) ICT活用した音楽授業の実践 ICT活用の視点と実践	単著	2010. 4	財団法人 音楽鑑賞教育振興会 音楽鑑賞教育 vol. 8 (64頁)	中学校音楽科で、電子黒板を活用した授業展開や音声データを加工して提示する取組などを報告した。 (pp. 34～39)
3) 新しい学習指導要領に基づく鑑賞領域の指導	単著	2010. 4	財団法人 音楽鑑賞教育振興会 音楽鑑賞教育 vol. 1 (88頁)	中学校学習指導要領移行期間 (2009) の鑑賞領域の指導について、新旧の学習指導要領を比較説明し、特に「根拠をもって批評する」ことへの対応を説明した。 (pp. 68～72)
4) 映像のある鑑賞ソフトの未来	単著	2011. 1	音楽之友社 教育音楽 中学・高校版1月号 (92頁)	音のみの情報と映像を伴う場合の情報の量的相違を説明し、中学校音楽科の教材としての映像ソフトの優位性について論じた。 (pp. 30～32)
5) 新しい教科書を活用した箏の学習とこれと関連する学習	単著	2012. 7	音楽之友社 教育音楽 中学・高校版7月号 (92頁)	中学校第1学年で器楽分野の学習として、教科書を活用し、箏を取り扱う事例を報告した。 (pp. 36～37)
6) どうしてる? 1年生の時間の使い方	単著	2013. 3	音楽之友社 教育音楽 中学・高校版3月号 (92頁)	中学校音楽科の年間指導計画及び評価計画について、座談会形式で取組や課題を報告した。 (pp. 30～32)
7) 連載 授業の悩み解決します「生徒が意欲的に鑑賞に取り組むためには、どうしたらよいのでしょうか?」	単著	2013. 11	音楽之友社 教育音楽 中学・高校版11月号 (83頁)	
8) 連載 授業の悩み解決します「『比較鑑賞がおすすめ』と聞きますが、何をどう比較させるといいのでしょうか?」	単著	2013. 12	音楽之友社 教育音楽 中学・高校版12月号 (83頁)	

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他)				
9)連載 授業の悩み解決します「我が国や郷土の伝統音楽の取扱いをどうしたらよいでしょうか？」	単著	2014. 1	音楽之友社 教育音楽 中学・高校版1月号 (83頁)	教育音楽 中学・高校版(音楽之友社)の3回連載。中学校音楽科の鑑賞領域の学習指導について、学校現場からの質問に対しQ&Aで応える形式で説明した。 (各号p. 48)
10)今に伝わる民謡の魅力を生かして 北海道の民謡や芸能を教材に	単著	2016. 7	財団法人 音楽鑑賞教育振興会 音楽鑑賞教育vol. 26 (64頁)	小・中学校音楽科の実践で、指導が構築しにくい郷土の民謡や芸能の教材を紹介した。北海道の民謡や芸能として「ソーラン節」「江差追分」「アイヌ伝統音楽」を取り上げ紹介した。 (pp. 20～23)
11)教材研究と指導法 「ノヴェンバー ステップス」楽しく身に付く授業づくり！	単著	2017. 7	財団法人 音楽鑑賞教育振興会 音楽鑑賞教育vol. 30 (64頁)	中学校音楽科で取り上げる機会の多い鑑賞教材(ノヴェンバー ステップス)について、指導構築の観点や指導展開する際の留意点などを紹介した。 (pp. 52～53)
12)教材研究と指導法 「歌舞伎《勸進帳》」楽しく身に付く授業づくり！	単著	2017. 10	財団法人 音楽鑑賞教育振興会 音楽鑑賞教育vol. 31 (64頁)	中学校音楽科で取り上げる機会の多い鑑賞教材(歌舞伎《勸進帳》)について、指導構築の観点や指導展開する際の留意点などを紹介した。 (pp. 52～53)
13)私の音楽鑑賞指導論	単著	2022. 7	財団法人 音楽鑑賞教育振興会 音楽鑑賞教育vol. 50 (68頁)	学習指導要領の改訂(平成元、10、20、29年)に合わせ、映像の伴う鑑賞指導、小・中学校が連携した研究活動、我が国の伝統音楽の鑑賞指導について、研究の視点と成果などを紹介した。 (pp. 56～59)
14)ICTを活用する音楽科の学習	単著	2022. 7	教育出版株式会社 音News Letter第22号東北発 音楽のおくりもの (4頁)	学校現場のニーズに合わせ、ICTを活用した音楽科の学習について述べている。機器の活用が前提ではないこと、情報共有のための新しい方法であること、児童生徒一人ひとりのニーズに応える可能性があること、の3点で論点を整理し、具体を示している。 (p. 1)